

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	名古屋飛行場立体駐車場(北棟)	階数	地上5F
建設地	西春日井郡豊山町大字豊場字織立	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	680 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年12月 予定	評価の実施日	2014年7月10日
敷地面積	8,621.01 m <sup>2</sup>	作成者	市川智英子
建築面積	3,547.99 m <sup>2</sup>	確認日	2014年7月11日
延床面積	17,430.28 m <sup>2</sup>	確認者	安藤正敏



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み 96%

③上記+②以外の 96%

④上記+ 96%

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 2.6**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

**LR のスコア = 3.6**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</td> <td>0.8 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	0.8 %	建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	0.8 %				
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.3</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
  - LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
  - Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
  - LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
- ③敷地内の緑化
  - Q-3 1 生物環境の保全と創出
- ④地域材の活用
  - Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積 (建築面積及び附属物面積)}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	果独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>2.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 騒音								
1 室内騒音レベル								
2 設備騒音対策								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 負荷変動・追従制御性								
3 外皮性能								
4 ゾーン別制御性								
5 温度・湿度制御								
6 個別制御								
7 時間空調に対する配慮								
8 監視システム								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 照明器具のグレア								
2 昼光制御								
3 眩り込み対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
<b>4 空気環境</b>								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
2 アスベスト対策								
3 タニコヒ等								
4 レンジオネラ対策								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4 給気計画								
4.3 運用管理								
1 CO <sub>2</sub> の監視								
2 喫煙の制御								
<b>Q2 サービス性能</b>								<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
3 衛生管理業務								
<b>2 耐用性・信頼性</b>								
2.1 耐震・免震								
1 耐震性								
2 免震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								

2.4 信頼性				2.0	0.19			
1 空調・換気設備				-	-			
2 給排水・衛生設備				-	-			
3 電気設備		②		3.0	0.50			
4 機械・配管支持方法				1.0	0.50			
5 通信・情報設備				-	-			
3 対応性・更新性				3.7	0.29			3.7
3.1 空間のゆとり				2.0	0.31			
1 階高のゆとり				2.0	1.00	3.0		
2 空間の形状・自由さ				-	-	3.0		
3.2 荷重のゆとり				4.0	0.31	3.0		
3.3 設備の更新性				5.0	0.38			
1 空調配管の更新性		②		-	-			
2 給排水管の更新性				-	-			
3 電気配線の更新性				5.0	1.00			
4 通信配線の更新性				-	-			
5 設備機器の更新性				-	-			
6 バックアップスペース				-	-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57			2.2
1 生物環境の保全と創出	●	③		1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮	●	④		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	●	④		2.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-			3.6
LR1 エネルギー				-	0.40			3.8
1 建物の熱負荷抑制				-	-			-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.29			3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				3.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用				3.0	0.50			
3 設備システムの高効率化			ERR=77%	5.0	0.43			5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				5.0				
集合住宅の評価				3.9				
4 効率的運用				3.0	0.29			3.0
4.1 モニタリング			設備が1種類(電気)で3種以上の効率評価が行えない為対象外と	-	-			
4.2 運用管理体制				3.0	1.00			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			3.7
1 水資源保護				3.0	0.15			3.0
1.1 節水				-	-			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	1.00			
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減				3.4	0.63			3.4
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.21			
2.4 非揮発材料におけるリサイクル材の使用	●	②	再生加熱アスファルト混合物	3.0	0.21			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				5.0	0.25			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組	●		仕上げ材の無い建物	-	-			
3 汚染物質含有材料の使用回避				5.0	0.22			5.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			仕上げ、接着剤等有害物質を含有しない材料を使用している	5.0	1.00			
3.2 フロン・ハロンの回避				-	-			
1 消火剤			粉末消火器使用	-	-			
2 発泡剤(断熱材等)				-	-			
3 冷媒				-	-			
LR3 敷地外環境				-	0.30			3.2
1 地球温暖化への配慮		①	エネルギー消費は照明設備のみ	3.9	0.33			3.9
2 地域環境への配慮				2.8	0.33			2.8
2.1 大気汚染防止				-	-			
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.67			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.6	0.33			
1 雨水排水負荷低減	●			3.0	0.33			
2 汚水処理負荷抑制				-	-			
3 交通負荷抑制	●		出入口に2箇所のゲートを設け、駐車場内を満空表示を設置。	4.0	0.33			
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.33			
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				-	-			
1 騒音	●			-	-			
2 振動	●			-	-			
3 悪臭				-	-			
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.67			
1 風害の抑制				3.0	0.70			
2 砂塵の抑制				3.0	-			
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				3.0	0.33			
1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策				3.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			

**重点項目スコアシート**  
名古屋飛行場立体駐車場(北棟)

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-あいち2011年度追補版Ver.2 (E)

■評価ソフト: CASBEE-NCb\_2011 (bpi&bei) v.1.5\_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.9</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.3</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.13	
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.12	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化  
重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和  
重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>本施設は、県営名古屋空港の利用者増加に伴い、現第1駐車場敷地に2棟の立体駐車場を建設し、駐車不足の解消を図るものである。工期短縮、コストメリットを考慮し、認定駐車場での建設を前提とした建設を行った。また、配置計画は将来的にもう1棟立体駐車場を建設する計画があることを前提とした。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>該当無し</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>外装設計において防錆対策として溶融亜鉛メッキ仕上げを採用</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>空調設備を設けていないため、建物からの排熱はほぼ無い。また、外壁の無いフレームによる構成のため敷地内の通風への影響も軽減される。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>照明設備の制御方法の工夫(自動点滅器、タイマー)</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>消火剤について 加圧ガスをCO2、N2を使用しフロン・ハロンの回避をしている</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>2箇所出入り口に設置するゲートに駐車場の満空表示を設置し、交通不可抑制に配慮した</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>